

## 6・石巻文化センター等の平成24年度文化財レスキュー

佐々木 淳 石巻市教育委員会 生涯学習課

## 0. はじめに

平成23年3月11日の東日本大震災により石巻市は、大きな被害を受けた。文化財もその例外ではなく、数多くの資料が流出したり、水損したりした。

震災発生直後から、文化庁を中心とした文化財レスキューにより多くの被災文化財が救出された。

本稿では、平成24年度についての活動報告を行う。

## 1. 石巻文化センター

石巻文化センターは、旧北上川河口西岸にあり、津波の直撃を受け、1階がほぼ壊滅した。1階で被災した資料及び2階にあり直接の被害は免れたが、保存環境の悪化が懸念された資料については、平成23年度中に他施設へ移送し、保管中である。

一部残置された資料及び二次資料は、後述する仮保管事業で、湊第二小学校旧校舎へ移送した。

平成24年度は、調査データの復元作業及び二次資料（写真や図面等）の整理を、被災ミュージアム再興事業のなかで実施している。

また、一部資料については、特定非営利活動法人宮城歴



脱酸素処理をした石巻文化センターの蔵書

史資料保存ネットワークに依頼し、整理・修復を行っている。

加えて、東京文書救援隊の協力を得て、水損した蔵書の一部について、脱酸素処理を行うなどの被災した蔵書関係のレスキューも実施した。

石巻文化センターに関しては、立地場所が非可住地域となったこと等により、別の場所へ、同様に被害を受けた1500人収容の石巻市民会館と合わせた形で複合文化施設として再建することとし、本年度末から取り壊しが始まっている。

なお、参考までに記すが、石巻文化センターの収蔵庫及び展示室にはハロン消火設備が設置されていた。解体が決まった後、ボンベの回収が必要となったため、機械室の瓦礫を取り除いてボンベ室に入ったところ、半地下の機械室の一番奥まった場所にあったハロンガスボンベ室は、わずかの浸水で済んでおり、ボンベや設備は無事であった。

ところが、専門業者に回収を依頼したところ、ボンベはすべて空であり、おそらく津波が1階の収蔵庫を襲った時に、回線がショートしてガスが放出されたものと推定されることであった。

同様な消火設備を備えている施設は、予期しないガスの放出による窒息事故を防ぐという観点からも、防災対策を考えるべきであろう。

## 2. 雄勝硯伝統産業会館

雄勝硯伝統産業会館は、硯の特産地である石巻市雄勝地区において、硯をテーマとした展示や資料収集を行っていた施設である。

雄勝地区の中心部にあり、震災の際は、展望台となっている最上階を除き、津波の直撃を受けた。展示中の資料は、流出し、収蔵庫へも海水が流れ込み、多くの収蔵資料が水損した。近世・近現代の絵画・書及び硯の実物が大半である。

絵画・書については、筑波大学松井敏也氏等の応援を得て、本年1月に脱酸素処理を行い、応急的な措置を施した。来年度に修復方法の検討及び費用の見積もりを行い、被災



雄勝硯伝統産業会館所蔵資料の状態確認等作業状況

ミュージアム再興事業により、平成 26 年度において本格的な修復を行う予定である。

硯については、石製品であるため、石巻市教育委員会が水洗し、仮保管している。

### 3. 牡鹿ホエールランド

牡鹿ホエールランドは、近代以降捕鯨基地であった牡鹿半島の先端部に近い鮎川地区にあった。おそらく震源に一番近い博物館施設である。鮎川港に面するように立地しており、津波の直撃を受けた。捕鯨に関する貴重な資料が展示収蔵されていたが、多くの資料が流出・水損した。

平成 24 年度は、他の施設へ預けることが困難な、クジラの骨格標本などの大型資料について、次項で述べる仮保管事業の一環として、湊第二小学校旧校舎へ移送している。



クジラの骨格標本の搬入

### 4. 仮保管事業

石巻文化センターの資料の大半及び雄勝硯伝統産業会館・おしかホエールランドの資料について、施設の再建までの間仮保管するため、閉校が決まった市内の湊第二小学校の旧校舎を利用して仮保管施設を整備することとなっている。

本旧校舎は、鉄筋コンクリート造り 3 階建てで、市内の学校建築としては、比較的新しいが、1 階は文化センター同様津波により壊滅している。

そのため、一部の大型資料を除けば、資料の保管場所は 2・3 階とする予定である。

そして、被災ミュージアム再興事業を活用して、本年度末までに 1 階の高圧洗浄による清掃、2 階の一部の教室を改修し、資料を保存できるような施設とすることとしている。また、来年度以降、津波で損害を受けた 1 階及びその他の施設を改修することとしている。

文化センター残置資料及び前述のホエールランドの大型資料及び雄勝硯伝統産業会館の資料については、今年度中に移送を行い、仮保管する。その後、市外に保管を依頼している資料について、保存上の空調条件の厳しくないものについては、順次移送し、仮保管することとしている。

そのほか、旧河南町教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘に伴い出土した遺物等が、土蔵に納められていたが、東日本大震災で土蔵の外壁が落ちてしまった。なるべく早く、ここへ移送する予定である。



石巻文化センターからの資料搬出の状況。エレベーターが使用できないため、クレーンで 2 階から吊り下ろした。

---

## 5. 各施設での展示等

宮城県美術館において石巻文化センターで常設展示していた石巻市出身の彫刻家高橋英吉の作品展示が行われ、また、牡鹿文化財収蔵庫にあった民俗資料については東北学院大学が仙台市のメディアテークで展示会を行ったりし、被災資料の救援の様子が広報されたりしている。

全国美術館会議加盟館であった石巻文化センターは、同会議から全面的な支援を受け、所蔵美術作品の応急措置、修復を実施していただいているが、その一端が、神奈川県立近代美術館等で公開されている。

来年度以降もこうした展示事業は、他の施設でも計画されている。

牡鹿文化財収蔵庫の資料展示の際には、展示会場を訪れた牡鹿地区の住民同士が、震災以後初めて再会した場合もあったとのことで、こうした催しが地域のコミュニティの再興にも役立つものと思われる。

## 6. おわりに

石巻文化センターをはじめとする石巻市内の博物館施設はいずれも壊滅的な被害を受け、その再建についても、すぐに実施とは言えない状況にある。

しかし、こうした文化財レスキューによる被災資料の応急措置、仮保管事業、調査データの復元等は、新たな施設の整備、地域文化の再生に向かっての前進であり、希望でもある。